



日頃から当法人の活動にご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。
2024年一年間の活動レポートをお届けいたします。

成年後見事業関連

◆後見等受任状況

昨年は年間を通じて新規の後見等受任はありませんでした。現在新規申立てを1件準備中で、春頃に当法人として13件目の受任を見込んでいます。過去の12件受任のうち1件は被後見人の方が亡くなって後見終了、現在11件の後見等を受任中です。



◆被後見人の事件（7月）

猛暑が続いた7月下旬、被後見人の方が入所している施設から行方不明となり、数時間後に熱中症で意識不明になった状態で発見される事件がありました。

当初は非常に危険な状況でしたが、幸い3日後に意識が戻り、後遺症もなく予後は良好にすごされています。

当該施設におきましても出入口の施錠を強化するなど再発防止策が講じられています。

◆被後見人のお父さまの逝去（10月）

10月、被後見人の高齢のお父さまが逝去されました。当法人として謹んで哀悼の意を表するとともに、被後見人のお母さま・お兄さまと協力して相続手続きを進めております。

なお、相続財産の相当部分を構成するご自宅について、お母さまが配偶者居住権を取得する方向で検討しています。

相談事業関連

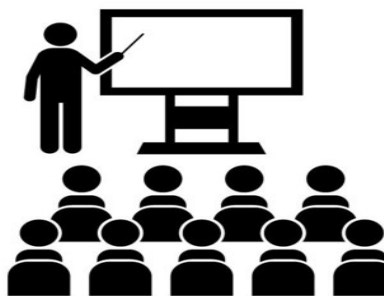
◆相談受け付け（通年）

昨年は相談会等の開催を見送りましたが、横浜市自閉症協会の会報に成年後見案内を掲載するなどの活動紹介を行ない、11件の各種相談に対応しました。前年からの継続相談案件3件とあわせた14件のうち、1件は親族の後見受任につながっています。

なお、4案件は2025年へ継続相談となっています。

普及活動関連

◆横浜市自閉症協会主催勉強会（11月）



当法人と連携して活動している横浜市自閉症協会主催の成年後見制度勉強会が、11月26日にかながわ県民活動サポートセンターにおいて開催されました。

当法人の宮崎副代表理事が講師を務めています。

成年後見制度全般の内容や利用上の注意点等に加えて、任意後見制度や家族信託など周辺制度についてもご説明しております。

質疑応答の時間には多岐に亙る内容の質問が活発に出され、参加者の皆さんの成年後見制度への関心の高まりが感じられました。

2025年以降も同様の勉強会の開催を検討しています。

2026年施行を目指している民法改正法制審議会の結論も見えてくる時期と思われるため、改正内容も含めたご説明ができればと考えております。

◆会員数増強（通年）

会員数は2024年末現在43名。2023年末比3名増（新規入会5名、退会2名）でした。

内部研修関連

◆被後見人が相続人となる相続における手続き一覧

2023年8月から約1年をかけ、後見業務執行者全員で相続手続きを網羅した一覧表の策定に取り組みました。被後見人が相続人となる相続が発生した場合、当法人は相続人の法定代理人としての役割を不足なく果たす必要があるため、万一にも手続き漏れを生じることのないよう作成したものです。一覧表の手続き数は1000項目以上に及んでいます。

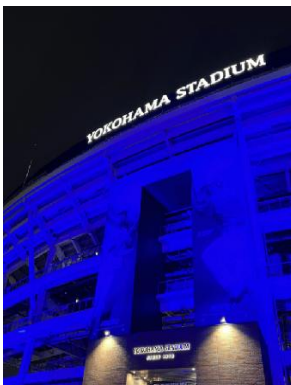
成年後見制度／知的障害者をめぐる事例・事件

◆事例／事件ウォッチ（通年）

マスコミ報道された多くの事例・事件に関して法人内で情報を共有し、業務に資するべく意見交換や認識の確認などを行ないました。

取り上げた主な事例・事件は以下のとおりです。（カッコ内は取り上げた会議の開催月）

- ▽障害者虐待統計（10月）・・2023年は件数金額とも過去最多となっています。要因は虐待防止の職員研修が事業所に義務付けられ、発見時の通報率向上につながったこととされていますが、元々ゼロであって然るべきもの。後見を務める者として喜べない状況です。
- ▽横浜市金沢区で住民の反対運動により障害者グループホーム開設断念（2月）・・・反対派住民から必ず出る発言が「障害者が来たら地価が下がる」ですが、データは否定しています。ムシロ旗を振りかざす反対運動の方がよほど資産価値を下げることに気づいてほしいものです。
- ▽被災地の成年後見人に求められた重い選択（7月）・・能登地震で被災者となった被後見人の高齢女性について、後見人は本人の熱望（夫のそばにいたい）をとるか手厚い医療を受けるため転居させるかの即時選択を迫られます。横浜が被災すれば我が身におきることです。
- ▽知的障害者からの臓器提供 一律不可が正しいか（9月）・・厚労省は意思表示できない知的障害者からの臓器提供は原則不可のスタンス。しかし兄弟姉妹間以外の提供者がほぼない骨髄移植などにおいて、それが本当に知的障害者のメリットにつながるのかにつき熟議が必要です。
- ▽被後見人の財産の着服事件（通年）・・後見人や施設職員による被後見人財産の着服事件が今年も新聞の紙面を賑わせました。そもそも論外の犯罪ですが、再犯の多い点は周囲が注意をしていないのかと首をかきげたくなります。また、犯人の告発を見送ることが多い点も疑問です。告発したうえで起訴是非の判断を司法に委ねるべきではないでしょうか。



自閉症啓発

◆世界自閉症啓発デー（4月）

4月2日は国連が2007年に制定した世界自閉症啓発デー。

横浜市は一般社団法人横浜市自閉症協会（当法人の賛助団体）との共催で『世界自閉症啓発デーin横浜 2024』と称する各種イベントを実施し、シンボルカラーの青が横浜を照らしました。

自閉症啓発を支援・協賛する輪は年々広がっています。ブルーライトアップだけでも、今年新たに横浜スタジアム（写真）が加わっています。

その他…事務所周辺でのトピック

◆横浜ワールドポーターズ開業25周年

当法人事務所が入居している横浜ワールドポーターズが2024年9月10日に開業25周年を迎えました。

派手なイベントが開催されることを予想していましたが、案外地味な扱いでした。



NPO法人 成年後見横浜やまびこ

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-2-1 横浜ワールドポーターズ 6F NPO スクエア

TEL:045-651-6260

FAX: 045-319-4339

HP: <http://www.npoyamabiko.org>